

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名：佐藤 史郎	提出日：平成23年3月8日
東南アジア研究所における職名：特定研究員	
* 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ ポストドク ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名)：	
国名：オランダ	
機関名：ライデン大学地域研究研究所 (Leiden University Institute for Area Studies, LIAS)	
カウンターパート研究者名：リンゼイ・ブラック (Lindsay Black) 講師	
* 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・研究機関・企業・その他)	
派遣期間：平成23年1月28日～平成23年2月28日 (派遣日数：32日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)	
① 研究・実験 、②フィールドワーク、③ セミナー 、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)	
①人文学、② 社会科学 、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧医歯薬学、⑨総合領域、⑩複合新領域	
派遣の概要(500～700字程度)	
<p>本研究の目的は、「非西洋的 (non-Western)」な国際関係理論の構築の可能性を模索することにある。現在、アジアに拠点を置く国際関係論の研究者は、アジアを対象とする地域研究および歴史の知見を国際関係理論に取り入れることで、日本型国際関係理論あるいは中国型国際関係理論といった一国家単位の国際関係理論や、アジア型国際関係論といった地域単位の国際関係理論を模索している状況にある。しかしながら、その反面、非西洋的国際関係論は単なる「反西洋的 (anti-Western)」な視座にすぎない、との批判がある。このような背景のもと、本研究は、非西洋を反西洋と批判する理由とはいかなるものかについて、検討を試みるものであった。</p> <p>派遣先の研究機関は、オランダのライデン大学地域研究研究所 (LIAS) である。同研究所は、欧州に位置するにもかかわらず、アジア地域研究者が多く所属している点、加えて、グローバルな世界のもとで地域研究と国際関係論の協働を目指すべく、国際関係論の研究者も所属している点である。それゆえ、ライデン大学地域研究研究所は、本研究を行ううえで、大変環境の良い派遣先であった。</p>	
事業に係る研究成果(500～700字程度)	
<p>2011年2月23日、ライデン大学にて、京都大学 G-COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」(京都大学東南アジア研究所)とライデン大学地域研究研究所、ならびにライデン大学近代東アジア研究センター (Modern East Asian Research Centre, MEARC) が共催して、国際セミナー「Politics of East Asian International Relations Theory: Towards 'Non-Western' International Relations Theory」を開催した。この国際シンポジウムでの報告を通じて、非西洋的国際関係理論を反西洋的と捉える理由が、皮肉にも、西洋の思想や哲学に影響を受けたポストモダニズムとポストコロニアリズムに基づいていることなどが浮き彫りとなった。</p> <p>なお、本研究のさらなる成果としては、(1)2011年3月の米国国際関係学会 (International Studies Association, ISA) で報告し、そこで得たコメントを踏まえたうえで、(2) 海外の査読付ジャーナルに投稿を試みる予定である。</p>	